

# 伊予市 じんけん教育

一人ひとりの人権が尊重される、  
明るい伊予市をめざして



2018 No. 26

編集・発行 伊予市教育委員会  
愛媛県人権教育協議会伊予市支部  
〒799-3113 伊予市米湊820番地  
TEL.089-982-5155 FAX.089-982-5156

## 人とかがかわる楽しさを味わって

## なかむら保育所

なかむら保育所は、田畑の広がる北山崎地区にあり、全園児五十七名が元気に生活しています。近隣には、幼稚園や小学校、公民館、駐在所などがあり、小・中学生との交流、敬老会への参加、高齢者福祉施設「森の園」との交流などを行い、地域とのつながりを大切にしています。

などの季節交流も行っています。共に同じ地域に住む仲間として、一緒に心躍る体験をし、関わりを深めていくことが大切だと感じています。



みんなでサッカー楽しいね

また、子どもたちは北山崎幼稚園と合同で行うサッカー教室をとて楽しみにしています。コーチの指導の下、同年齢児と一緒にさわやかな汗を流し、切磋琢磨する姿はほほえましい限りです。その他プール遊び



大きなスイートコーンが採れたよ

て育てたん?」「小さかったのにでっかくなつたなあ」など、驚きの声も聞かれました。スイートコーンの一生(種↓育苗↓収穫↓試食)に寄り添うことのできた食育活動でした。「ヤギさん、スイートコーンの葉っぱをおいしそうに食べよるね」と、食がつながっていることも気づくことができました。

園生活では、クラス保育はもとより、異年齢交流にも力を入れています。子どもたちは、日常的な自然な関わりだけでなく、お手伝いの関わりも大好きです。運動会前には、〇、一歳児

地域の伊予市青年農業者協議会の方々の食育活動は、今年で二年目になります。今年は、「スイートコーンの収穫&ヤギとのふれあい」を体験しました。子どもたちは、春に園庭で種を蒔いて育てた苗が、三秋の畑ですくすく育ち、大きくなっていくことにびっくり!「おいちゃん、どうやっ

の親子踊りの練習を手伝ってもらいました。四、五歳児が親代わりになり、手をつないで踊ります。「〇〇くん、かわいい」「△△ちゃん、一緒にしよう」などと、一歳児を誘う姿が見られました。大きい子が小さい子に向けるまなざしは、優しさといったわりに満ちています。小さい子の役に立っている

自分を実感できる経験のようでした。小さい子は、頼もしいお兄さんお姉さんに安心して身を任せ、あたたかい気持ちを感じているようでした。子どもたちは、異年齢児との関わりを通して、様々な感情を経験し、自分とは異なる存在を受け止めていくのだと思います。



みんな なかよし

子どもたちには、園内外で様々な人と触れ合い、一緒に活動したり優しく接してもらったりすることで、人と関わる楽しさを味わってほしいと思っています。そして、一人ひとりの心に自他を大切にできる気持ちや感謝の気持ちを豊かに育んでいけるよう、日々の保育を繰り返していきたいです。



## 人権・同和教育参観日、双海中フェスタ

## 双海中学校

双海中学校では、教育目標「自分が好き、学校が好き、双海が好きで、双海中学校生として誇りをもって活動する生徒の育成」のもと、全校生徒七十七名という小規模校の良さを生かしながら、人権・同和教育に取り組みでいきます。今回は、十月二十九日に行われた人権・同和教育参観日と双海中フェスタについて紹介します。

本年度は台風接近のため、当日の開催が心配されましたが、無事開催することができ、多くの保護者や地域の方が来てくださいました。

まずは、二年生教室で行われた参観授業です。一年生は「車いすの少年」という題材で、障がいのある人に対する接し方を通して相手の立場に立った「思いやり」を考え、共生社会をつくる上で大切なことは何かを考えました。一年生は一学期に福祉施設で車いす体験をし、十月に特別支援学校との交流学习を行っており、その時に感じたことや障がいのある人と接したことで、今回の授業内容への関心を高くもつことができ、班での話し合いなど意欲的に活動ができていました。

ていました。

二年生は、江戸時代の飢饉の時に、他の村人に粥を振る舞い、人々を救った「山の粥」を題材として、「人間としての真の強さ」に気づき、差別を許さない心をもてるように授業を行いました。生徒たちは村の人たちがなぜお粥を振る舞ったのかや、差別をされ続けた理由などを真剣に考え、これから同和教育について学習するために正しい知識と理解を深めました。



2年生の参観授業

午後からは、人権作文の発表や三年生による読み聞かせと人権啓発劇がありました。

読み聞かせは、本年度からの新たな取組で、谷川俊太郎さんの詩「みみをすます」の朗読などを通して、「温かいことば」や「勇気の湧くことば」を発表しました。

その一部を紹介します。



読み聞かせ

「かけがえのない一日。かけがえのない一瞬、一秒を大切に生きていく」

「これからも双海町のあいさつを守っていききたい」  
「これからも家族との時間を大切に生きていききたい」  
「私は人の心の痛みがわかる人になりたい。もう後悔はしない」  
この他にもたくさんの心に届くことばがありました。

最後に人権啓発劇です。旧下灘中学校が行っていたものを受け継ぎ、今や双海中フェスタには欠かせない取組となっています。三年生が教師と協力しながら脚本・演技など全て考えます。練習に入ると、どのように演じれば見ている人に伝わるかを意識しながら練習しています。

識しながら、一人ひとりが主役であることを忘れず演じていきます。今年は友達への接し方やSNSでのトラブルをテーマにしました。準備期間は短かったですが、それぞれが立派に役を演じることができ、見ている側も劇に引き込まれていました。

### 三年生の感想

人に何かを伝えるということとは自分が思っていたよりも難しいことが分かりましたが、みんなで意見を出し合い練習していくうちに伝えたいことを表現することができるようになりました。見てくださった人が自分自身を振り返るきっかけになってほしいと思います。



人権啓発劇

今後、この伝統を守り、生徒、保護者、地域の皆様に正しく学び、伝えることを継続していきたいと思えます。

# 第六十九回 全国人権・同和教育研究大会 (島根県)

# 愛媛県人権・同和教育研究大会

第六十九回全国人権・同和教育研究大会が、平成二十九年十二月二日、三日に島根県で初開催されました。「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」部落問題を解決し、人権文化の創造をはかるために、同和教育の充実と発展を通して人権教育・人権啓発を構築していこう」を大会テーマに、全国からおおよそ六千人、伊予市から四十名が参加しました。

「自主活動」「進路・学力保障」が、社会教育部の分科会では、「人権確立をめざすまちづくり」がテーマでした。

言いつもりで臨みました。少なくとも、人を差別したことがないと自信をもって言える自分がいたからです。ですが、分科会最初の報告の意見交換のときに、その自信は一瞬にして打ち砕かれます。差別や偏見がある世界で生きていく方の苦しみや辛さの声を聞き、目に浮かぶ情景に胸が締め付けられる思いでした。同時に、私が差別をしなかったのは、きつと面倒なトラブルに巻き込まれなくなかったから。つまり、関心をもたず、傍観者でいたのです。そう分かったときに、自信は後悔に変わりました。

平成二十九年十一月七日に、「差別の現実から深く学び、『部落差別解消推進法』の具現化をめざして、地域ぐるみで人権・同和教育を推進しよう」を大会テーマに、愛媛県人権・同和教育研究大会が開催されました。平成二十八年十二月に施行した「部落差別解消推進法」の具現化が大会テーマに盛り込まれた大会です。

一日目の午前は全体会、午後と二日目は、四分科会が開催されました。学校教育部会の分科会では、「人権確立をめざす教育の創造

「同和教育って何だろう？」「恥ずかしながら、人生の中で深く考えたことはありませんでした。一方、義務教育を受ける中で、漠然と「人を差別してはいけない」という気持ちは培われていたように、人を出身や見た目で差別することはありませんでした。それに満足していた自分がありました。研究大会には、すっかり意見を

「同和教育って何だろう？」関心をもたなかったことで、傷つけた人もいたかもしれません。無知であることや忘れ去ることほど、怖いものはないと思えました。今回の機会がなかったら、今後誰かを傷つけていたかもしれない。そう思うと怖くなります。

今回の研究大会を通して、改めて人権・同和教育に関心をもち、向き合う大切さを知りました。そして、自信をもって「差別はダメ！」と言える自分になっていきたいです。



全体会オープニング松江祭藝友会の演奏



分科会のようす

### 【参加者の感想】

「同和教育って何だろう？」「恥ずかしながら、人生の中で深く考えたことはありませんでした。一方、義務教育を受ける中で、漠然と「人を差別してはいけない」という気持ちは培われていたように、人を出身や見た目で差別することはありませんでした。それに満足していた自分がありました。研究大会には、すっかり意見を

「同和教育って何だろう？」関心をもたなかったことで、傷つけた人もいたかもしれません。無知であることや忘れ去ることほど、怖いものはないと思えました。今回の機会がなかったら、今後誰かを傷つけていたかもしれない。そう思うと怖くなります。

今回の研究大会を通して、改めて人権・同和教育に関心をもち、向き合う大切さを知りました。そして、自信をもって「差別はダメ！」と言える自分になっていきたいです。



特別報告「父から私へ、そして吾が子へ」

# 地区別人権・同和教育懇談会の取組

# 中村地区公民館

人は、すべて生まれながらに自由平等であり、かつ人間として尊ばれ生きる権利を有しています。お互いの人権を守って明るい社会を築くことが市民全ての願いであります。本市は、平成十七年四月に「伊予市人権を尊重する社会づくり条例」を制定しました。この条例のもと、同和問題をはじめとする様々な差別の解消をめぐり、各地区公民館が主体となつて地区別人権・同和教育懇談会(地区懇)を行っています。

真に人権が尊重される地域社会をめざして、中村地区公民館における地区懇の取組を紹介します。

中村地区では人権・同和教育推進委員会を開催し、各地区実施予



地区懇のようす

定日等を審議・決定しています。そして、十一か所の集会所で実施しています。社会教育指導員、小中学校の先生方に講師をお願いし、地区懇を始めます。

地区懇では、講師、小中学校の先生方の自己紹介を兼ねて、先生方には子どもの人権ポスターの紹介や学校の人権教育の取組等を報告していただき、ビデオ視聴に移ります。その後、講師の先生にご講話いただき、質疑応答、意見交換をします。主な意見を紹介します。

○傍観者にならないように、日々学んでいきたい。

○インターネットの危険性を教えていただきました。

○愛護班、PTAの方も多く参加してほしい。

○もう少し若い年代の方の参加をお願いしたい。

○何気ない陰口、うわさ話が知らず知らず人権を侵害している。

○それぞれの人権問題について、まず、正しい知識・理解を得ることが大切である。

○自分の生活を振り返り自分を見つめることができた。

などの意見・感想が多かったです。



子どもの人権ポスターの紹介

十月六日には、中村地区人権学習講座「ともしび会」を開催しました。「幸せの種をまこう〜一人ひとりの命を輝かせるために〜」をテーマに、社会教育活動等でご活躍の松山市出身の中村和憲氏を講師にお招きしました。会場である北山崎小学校の体育館には、小学生、先生方、公民館運営委員、社会教育団体等、三二〇人が参加しました。

「いのちかがやく」＝「心がかがやくこと」。笑顔と、いい言葉と、いい行動ができると、一人ひとりの命が輝くのです。大人になっ



「ともしび会」の講座のようす

て大切なことは、①笑顔、②あいさつ、③返事、④元気、⑤素直です。中村講師の素敵な歌を聴かせていただいた後、全員で「ビリーブ」を大合唱しました。中村先生が「幸せの種」をまいてくださったので、地域でこの輪を広げたいと思います。大変有意義な講座でした。

地区懇や講座を通して、一人でも多くの市民の皆様が相互の人権を尊重し、自らが人権を尊重する社会づくりの担い手であることを認識し、人権の大切さについて深め、話の輪を広げ、今後の啓発活動に生かし、この地域が益々明るく元気な地域社会になれるよう取り組んでいければと願っています。

# 人権情報 よっしゃ わかった 考えてみよう!

## ステレオタイプって何?



ステレオタイプとは、元来、印刷で用いる鉛版(原版からとった紙型に溶融した鉛などを流し込んで作った複製版)のことですが、転じてものの見方・態度や文章などが型にはまって固定的であること(紋切り型)を意味します。

### ステレオタイプの例)

○東洋人(挨拶のときに合掌し、お辞儀をする。空手・柔道・拳法などの格闘術の達人である。など)

○血液型性格分類(B型は△△なご)……日本では広く話題になりますが、欧米諸国ではこういった偏見は見られません。科学的な根拠はありません。

○性別イメージ(男性はいざという時頼りになる。女性は気が利きおしゃべり好き。など)

○「○○の人はこわい」……どこにでもこわい人、やさしい人はいます。○○のことをよく知らない人ほど、偏った情報に左右されやすく、世間のステレオタイプを受け入れやすいようです。

こういったステレオタイプは、相手や集団を単純化して、実像とは違い、誤解が生まれ、無意識のうちに偏見・差別に結び付いていることがあります。個々一人ひとりを理解する態度が必要です。

最後に、「江口」と「さん」の心に響く詩を紹介します。

### 人の値うち

何時かもんぺをはいて  
バスに乗ったら  
隣席の人は私を  
おぼはんと呼んだ  
戦時中よくはいたこの活動的な  
ものを  
どうやらこの人は年寄りの  
着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て  
汽車に乗ったら  
人は私を奥さんと呼んだ  
どうやら人の値うちは  
着物で決まるらしい

講演がある

何々大学の先生だと言えば  
内容が悪くとも

人々は耳をすませて聴き  
良かったと言っ

どうやら人の値うちは  
肩書で決まるらしい

名も無い人の講演には  
人々はそわそわとして帰りを急ぐ

どうやら人の値うちは  
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが  
部落にお嫁に来る

でも生まれた子どもはやっぱり  
部落の子だと言われる

どうやら人の値うちは  
生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日  
このあやまちに気付くであろうか

## 差別語・表現について

一九八〇年代にアメリカではじまったポリティカル・コレクトネス(用語における差別・偏見を取り除くために政治的な観点から見て正しい用語を使う)運動の流れに伴い、日本でも一九九九年に「保母」を「保育士」に、二〇〇二年には「看護婦」を「看護師」に改めました。他にも、「スチュワーデス」を「客室乗務員」に改めるなど、たくさん言葉が法改正されました。これは、男女共同参画社会を築く中で、同じ業種でありながら男女の職業名を分けることに違和感があったり、当事者を傷つけたりするためです。

放送局では、放送自主規制用語があります。これは、発した表現で人を傷つけることがないように配慮しているものです。

相手の立場に立つて考え、小さな違和感を大切に温め、言葉とは何か、表現とは何か、「きりがない」とあきらめずに議論を深めていける人権文化を育てていくことが、私たちの社会をより豊かにするのではないのでしょうか。